

新宅 道和 選

特
選

燃え落ちる線香花火暗闇に密かに光る夏のピリオド

福山市立東朋中学校二年 小林 サラ

【評】 気持ちを表す言葉は一字もないが、楽しかった夏が終わる寂しさを上手に詠った。吉田拓郎の「夏休み」の世界。

亡き祖母が背中に触れた手思ひ出す触れてほしくてまた会いたくて

県立広島国泰寺高等学校二年 横山 千紗

【評】 背中をさすってもらったその触覚と、作者の優しさが伝わってくる。おばあちゃんがあの世界で喜んでますよ。

タンポポのくきをおったらのりみたいねちやねちやしてて手にくつついた

庄原市立高野小学校四年 藤永 美菜

【評】 タンポポの茎を折ると白くて粘り汁が出る。その体験を上手に表現した。これからも体験を詠み続けてほしい。

タラのめがちくちくささるいたいなあ森にはえてるサボテンみたい

庄原市立高野小学校四年 奥田陽那太

【評】「山菜の王様」であるタラにはとげがある。その痛かった体験を素直に詠んだ。四句五句の比喩が面白い。

体育館猛暑断ち切るホイッスル優勝かけた最終決戦

呉市立川尻中学校二年 坂木 康信

【評】部活関連の短歌が多い中この短歌は特別な緊迫感が伝わってくる。「猛暑断ち切るホイッスル」が秀逸である。

ふゆの朝一番乗りの教室で隙間からさす朝日楽しむ

福山市立松永中学校三年 佐藤ななみ

夏の空ソーダのような青空が雲のアイスと混ざり合ってる

三次市立八次小学校六年 安長友里恵

夕すずみそとがすずしいきもちいい空にエアコンついてるみたい

三次市立八次小学校二年 藤田 彩乃

坂の町かはたれどきに漕ぎ登るたそがれどきの風を求めて

県立尾道北高等学校一年 津島 尖汰

想い人待てど暮らせど現れぬいつ逢えるのか神様に聞く

福山市立松永中学校三年 佐々田桃花

晴れた空大きく咲いたひまわりは太陽までも小さくみせる

東広島市立松賀中学校二年 塩村 笑愛

反抗期不意に来るこの罪悪感いつもごめんねいつもありがとう

福山市立誠之中学校二年 中山 琴心

夏休みもお母さん仕事でさびしいよたまには休んであそびに行こう

尾道市立向東小学校四年 眞鍋 亜恋

夏祭り屋台にぎわう人混みに見慣れぬ私服の君を見つける

県立尾道北高等学校一年 落合 優香

君のことずっと見てたら目が合ってバレてないかな私の気持ち

県立広島国泰寺高等学校二年 向井 陽菜

初めから好きじゃなかったあんなやつそう誤魔化した春のあの夜

県立広島皆実高等学校一年 永井 爽笑

もう八時今日はやばいと家を出てエレベーターでいったん落ち着く

県立広島国泰寺高等学校二年 山本 蒼人

コロナ明けマスク外した新学期喜怒哀楽が見えるうれしさ

県立広島国泰寺高等学校二年 濱野 智輝

大変だ帰っていたらくまを見た足音けしてしずかににげる

庄原市立高野小学校三年 前田 安紀

ゆうえんち空中ブランコくるくると目までくるくるおりののこわい

三次市立八次小学校二年 田中 颯人

あと少しそう決めてからも10分スクロールする手が止まらない

県立広島国泰寺高等学校二年 岡野 泰生

盆踊り打ち上げ花火着火してわすれたころにとび出してきた

庄原市立東小学校六年 亀井 環

考查解きけっこういけた自信あり後から気付く裏の問題

県立尾道北高等学校一年 横山 輝

友達と放課後にやる勉強は口だけ動きペン進まない

呉市立呉高等学校三年 大室 木春

早起きしテレビつけて式を見る家族そろって黙祷をする

比治山女子中学校二年 野田ゆらら

新宅 道和 選

特
選

夕ぐれは十円玉のにはひする握つて走つた駄菓子屋までを

広島市 森 ひなこ

【評】夕方十円握り駄菓子を買に行つたのを思い出した。貧しくても幸せだった。「十円玉のにはひ」が効いている。

被爆者の調査といわれ友の母ジープに乗せられ連れてゆかれし

安芸高田市 井上 愛

【評】「A B C Cに原爆の効果を調べるための研究材料にされた」と多くの被爆者が証言している。まさにその現場である。

てんねんのプラネタリウムじゃねと孫は広島に無き星空を見る

三次市 藤原 郁子

【評】完璧な孫歌ですが、お孫さんの言葉が秀逸。実は「プラネタリウムの方が天然の星空みたい」なんですけどね。

広島のゲンは裸足でかけめぐる翻訳されて世界の国を

広島市 山口 順子

【評】「はだしのゲン」について諸々議論があるが、24言語に翻訳されて原爆の非人道性を世界に訴えているのも事実。

青空の下で迷子になった日の眩しさだけがまだ新しい

広島市 崎山 紗帆

【評】迷子になって呆然と空を見上げている夏帽子の昭和な女の子の映像が浮かんでくる。四句五句が良い。

入 選

ドンツドドン不意の花火に踊る胎児こどもを抱き愛いとしさ溢れくる夏

安芸郡坂町

石口 阿希

生かされて寄り添う時間ふえていく腎臓ひとつ無くしたけれど

広島市

岡田 郁枝

水仙の花のようなる笑顔して「合格したよ」と少女は告げる

庄原市

安川 博子

つぎつぎとハードルを跳ぶ勢ひでわが子は今日の出来事を言ふ

広島市

熊谷 純

霧ひくく漂ふ野道を朝練の坊主頭の自転車がゆく

安芸郡海田町

光岡 詔子

閉店の店主の挨拶貼り終へて客を迎へぬ扉を閉じる

呉市

松原 恵子

数知れぬ犠牲のありて値上がりの卵ひとつを味はひて食ぶ

福山市

高橋千恵子

親爺さんと親しまれぬし山毛櫓倒る万の抱擁受けしその幹

広島市

清水 勝子

用水路のごみに掛かりてくるくとペットボトルは海にも行けず

福山市

高橋 泰子

厨辺の明かりやさしや風邪癒えし母が小さくおかわりを言う

広島市

高野 和子

雪ふりて杉の木立の暮れ早し枝を打ちては妻と呼びあう

後家さんと呼ばれて生きし戦後なり呼ばれぬ名前戒名の一字

「お母さん痒いところはないんかね」墓の背を洗そびらいつつ聞く

急くときはレジの並びを見比べて若者多き列に連なる

差す光波打つプール水しぶき子の歓声がりフレインする

巢立ちせしコウノトリ一羽山里の夕なずむ頃日毎まみえり

短か日の夕餉を急かす夫は亡く鋏打ちおろす暮色の畑に

遠雷は近づくことなく消え去りてこの夏子らは帰省せざりき

猪も食わねばならず百姓は食われてならず戦いつづく

あけぼのの天空にある下弦の月やわらかき光が私を包む

庄原市 永宗 敏昭

福山市 小林 加悦

広島市 岩本 幸久

広島市 小坂 修

庄原市 古家八千代

福山市 土屋 純子

三次市 林 勝子

広島市 岡田 寿子

三次市 真丸 利子

広島市 大本タツ子